

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670600095
法人名	社会福祉法人 周山会
事業所名	グループホーム粹交舎滑川
所在地	富山県滑川市野町1687-5
自己評価作成日	令和5年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者一人ひとりとよく会話し、個性を大切にしながらそれぞれの思いに沿えるよう支援しています。モットーであるゆっくり、楽しく、一緒にを常に考え面会、外出が制限される中で入居者が日々を楽しめるよう手作りおやつやイベントなどを大切にしています。畑やプランターで育てた野菜を収穫して食べたり、旬の食材を取り入れ季節を感じてもらっています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、閑静な住宅街にあり、1ユニット9名が暮らす。近くには、早月中学校や、同法人が経営する老人保健施設、保育園をはじめ、オープンを今秋に控えたサービス付き高齢者向け住宅が建設中である。モットーである「ゆっくり、楽しく、一緒に」を常に考え、利用者が日々を楽しめるよう、畑やプランターで育てた野菜の収穫や、季節を感じることができるよう、食に関するイベントを大切にしている。職員は、チームワークがあり、話し合いで解決していける仕事のしやすさをあげ、利用者への感謝の気持ちが自然と出ると話す。管理者は、看取り対応はないが、隣接施設の協力体制があることが強みであると話す。機関誌「ぽっかぽっか」では、事業所内でゆったり楽しむ笑顔いっぱいの利用者の様子を伝え、家族の信頼と安心感へつながっている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和5年8月24日	評価結果市町村受理日	令和5年10月13日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識出来るよう目に付くところに張り出している。職員会議でも話し合い共有し取り組んでいる。	開設以来の一貫した理念を基本に、「ゆっくり、楽しく、いっしょに」をモットーに、認知症があっても、生き生きと生活していただける、家庭的で温かく、個々に寄り添うケアを共有し、実践に繋げている。理念やモットーは、わかりやすい場所に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防のため秋祭りやさこや公民館行事には参加できていないが、地域の方から毎年採れたての野菜の差し入れがある。同一法人の保育所の園児が毎年芋ほりにくるため交流している。	今年は隣接施設で行われた納涼祭に参加し、早月中学校生による、「新川古代神」踊りを見学することができた。今後、法人が運営する保育園児との芋掘りイベントに参加する予定がある。公民館行事、秋祭りやさこ等、交流の機会を徐々に再開していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ぽっかぽか」を公民館に届け活動を見てもらい、認知症の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所、利用者の近況や活動、事故、ヒヤリハットを報告し家族、各メンバーの意見を聞きサービスの質向上にいかしている。	2か月に1回、町内会長、民生委員、老人会会長、市役所職員、隣接施設の副施設長、利用者家族の出席により開催している。会議では活動報告、事故・ヒヤリハット報告、身体拘束実施状況報告、隣接施設工事の進捗状況報告を行い、意見交換を図っている。会議録は、職員間は回覧周知、家族には郵送で対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営会議に市役所医療保健課の職員に参加してもらい話をする機会を設け協力してもらっている。	2か月に1回の運営推進会議の他、いつでも情報交換や相談ができる関係性が築かれている。新型コロナウイルスワクチン情報や食中毒対策など、日常的に、その時々での情報や助言をもらい、きめ細かい協力体制を築きながら連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設している介護老人保健施設の研修会に参加したり、GHでは定期的に話し合いを行い研修内容の振り返り、点検をしている。	併設施設の研修会に参加している。虐待、身体拘束チェック表を基に個々に定期で確認している。スピーチロックやグレーゾーンについても振り返りや検討をおこない、些細な行為も身体拘束につながる可能性があることを職員の気づきにつなげている。	実施されている身体拘束適正化のための委員会、研修会について、誰もがわかりやすい記録の整備、整理の方法、仕組みづくりの工夫等に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員会議や業務の合間などにも話し合い防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修で学んだことを振り返り活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の運営、取り組みについて説明し理解、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者の要望、連絡事項を連絡ボードに張り出し職員間で共有出来るようにしている。運営推進会議や面会時、電話対応時など家族の意見や要望を聞き取れるようにしている。	利用者の意見や要望は、聞き取った職員が、連絡ボードや個人記録に書き留め、職員間で情報共有している。家族の意向、要望は面会時や電話対応時に聞きとり、その機会を大事にしている。結果や要望は連絡ボードやカンファレンス記録で共有し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見交換したり、要望、提案を聞き運営に活かせるようにしている。個別面談も行い日頃から話やすい環境作りに努めている。	毎月の職員会議で、職員の意見や要望を聞く機会がある。管理者は現場で職員の声に耳を傾け、コミュニケーションをとり、勤務希望や業務改善の提案に繋げている。話すことで気持ちが楽になったり、気づきにつながる声掛けをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の身体、状況に応じて勤務時間や休み希望等配慮している。個々の努力は充分感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内の研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。法人外の研修参加があまり出来ていないので進めていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前行っていた同市のグループホームとの交流会が再開出来ていないため交流の機会はないが、広報誌のやり取りで活動内容等を知り、刺激を得ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状況、今までの生活状況の把握を行い、本人の要望等を傾聴し思いに添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労、不安、思いを十分に傾聴し、家族の思いにも添えられるよう話し合いをし今後の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を把握し改善に向けた支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々本人の思いに共感し、苦しみ、不安を分かち合えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報や日頃の様子などこまめに報告し、家族の思いも傾聴しながら本人を支えていけるよう関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出を控えていたため交流はあまり出来ていないが、電話での交流はある。写真や年賀状のやり取りもある。	家族とは、受診の付添い時に関係継続の機会がある。実家へのドライブや、近所の散歩、希望すれば電話で家族と会話を楽しむことができ、利用者が満足する取り組みを継続している。現在は、外出、外泊を制限しておらず、お盆に墓参りのため外出された方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同志と一緒に過ごせるよう配慮したり、一人ひとりが孤立しないように常に気にかけて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も併設の老健に入所中の方などと話をしたり、フォロー出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で言動、表情から本人の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合でも職員間で話し合い情報交換しながら意向の把握に努めている。	普段の暮らしの中の会話から、利用者の思いや意向を把握し、連絡ボードや個人記録に書き留め、職員間で把握し、支援に活かしている。思いや意向がくみ取りにくい利用者は、職員から積極的にかかわり、しぐさや表情から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、親族から今までの暮らし、生活環境などを聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握しながら、過剰な介護にならないよう励ましながら、新たな力を発見出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、意向を取り入れ、併設の老健の看護師、リハビリ職員の意見も参考にしながら3か月ごとに見直し、介護計画を作成している。	現状に即した介護計画となるよう、基本3か月ごとのモニタリングで計画の見直しを行っている。見直しは担当職員を中心に職員会議で行い、併設施設の看護師やリハビリ職員の意見を介護計画に反映させている。	利用者、家族、関係者と利用者本位の意向を踏まえた担当者会議の開催により、気づき・意見・要望の反映がわかる介護計画の作成、書式の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアでの気づきなど介護記録に残し職員間で共有し介護計画の見直しに役立てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況に応じて支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の希望に応じ、訪問美容、訪問歯科に入ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族がかかりつけ医を選択でき、訪問診療、病院受診を行っている。通院は家族が行い、急変時は市の総合病院にお願いしており職員が付き添うこともある。薬の管理は併設の老健の薬剤師がしている。	入居時の、本人や家族の要望に沿ったかかりつけ医の受診となるよう支援している。かかりつけ医の受診は、家族対応となっており、受診結果は申し送りで伝達し共有している。入院時には状況のわかる「継続看護介護記録」を持参してもらうなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面やケアについて併設老健の看護師に報告、相談している。また、急変時にきてもらったり日々の状態についても定期的に診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に対する情報提供をし、入院中は家族、病院と情報交換しながら訪問等も行い支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い事業所として出来ること、出来ないことを説明している。早い段階から主治医、家族、併設の看護師に相談しチームで支援にあたっている。	契約時に重度化指針を基に説明を行っているが、看取りの実施は行っていない。隣接施設の看取り研修に職員が参加している。事業所で生活継続ができなくなった場合は、早い段階で家族や併設施設の看護師、医師と相談し、法人の施設へ移行することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部パート職員を除き職員は応急処置、初期対応の訓練を受けている。定期的ではない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い職員が対応できるようにしている。食糧、飲料などの備蓄もしている。	火災訓練を年1回以上行っている。火災だけでなく水害、地震に分けて、災害マニュアル、避難シミュレーション、フローチャートを整備し、ヘルメットや備蓄品（米、粥、レトルトカレー、おやつ、缶詰、水、持ち出し袋など）が整備されている。災害時を想定した避難場所への移動訓練など、災害に備えた取り組みを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇委員会に参加したり、定期的な研修にも参加している。利用者の良かった点に着目した「にやりほっと」を実施し意識の向上に取り組んでいる。	隣接施設の接遇委員会の研修に参加し、人権やプライバシー保護に心がけている。転倒リスクのある方が多いなか、ただ制止するのではなく、根拠や理由を聞き、根気強く、慣れ合うことなく、尊厳を持った声掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりとゆっくり話せる時間を作り、本人が思いを伝えられるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の好みを聞いて着たい物を来てもらったりしている。意思表示が難しい方は季節にあったものを選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話で食べたいものを聞いたり、季節の旬のものを取り入れながら献立を考えている。季節に応じた手作りおやつと一緒に楽しみながら行っている。テーブル拭きや食器の片付けを手伝ってくれる方もいる。	朝食、昼食は職員手作りで提供し、利用者は、野菜の皮むき、テーブル拭き、食器の片づけなど、できることを手伝っている。季節料理（いとこ煮、おはぎ、恵方巻）や、おやつ作り（梅ジュース、ふかし芋、いちご大福、あべかわ餅、干し柿）、漬物づくりを利用者と一緒に行い、季節や食を楽しむ機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を作り一人ひとりにあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に職員が付き添い一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを行っている。必要に応じ家族と相談し訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導表を活用し、タイミングをみながら声掛け、誘導を行っている。必要な方にはさりげなくパットのチェックをし交換している。	排泄誘導表で、利用者一人ひとりの排泄パターンや、能力に応じたトイレ誘導や介助を行なっている。排便が少ない利用者には水分摂取量や薬を調整するなど、状態に合わせた排便を促している。5か所あるトイレはフロアに面しているため、暖簾で目隠しするなど工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操などで便秘予防に働きかけ、下剤や緩下剤を使用し時間、量など一人ひとりに合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回と決まっているが、拒否がある場合は強要せずタイミングや誘い方を工夫しながら支援している。入浴剤やゆずなど使用し気持ちよく入浴できるよう努めている。	基本週2回入浴となっているが、利用者の要望や体調に合わせて無理強いせず入浴できる体制をとっている。職員とマンツーマンでゆっくり入浴し、会話を楽しむ機会となっている。ゆず湯など季節に合わせた香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその日の状態に応じ自由に休息や昼寝が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、副作用、用法、用量などの説明書きはカルテにファイルしており、PCにも入っているため全職員がすぐに確認できる。薬は併設の老健の薬剤師が管理しており、相談などもできる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族に生活歴、趣味を聞いたり、日々のケアの中でその都度聞きながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑や敷地内の散歩はよくしている。感染予防のため買い物など人の多いところにはまだ出掛けられていないがドライブはできている。	事業所周辺の駐車場の散歩や、今年はプランター菜園でトマト、キュウリ、ひまわりなどを栽培し、その成長を楽しみに、外気浴を実施している。以前は花見、バスハイキング、外食等を実施していた。気分転換やストレス発散の機会として、日常的に戸外へ出かける支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の現金所持は行っておらず、必要なものは家族に依頼したり、病院受診の際に一緒に買って来られることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけれるようにしている。年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月職員手作りの壁画を飾ったり、テーブルに季節の花を飾ったりしている。ソファや畳もあり、居心地よく過ごせるようしている。空調も直接あたらないよう配慮している。	共有空間は広く、清潔で圧迫感がない。利用者と職員がペットボトルキャップを利用して作成した壁画アート「幸せを呼ぶ白クジラ」や、夏祭りの屋台をイメージした作品などが飾られている。リビングで過ごす利用者は、調理の音、匂い、会話を楽しむ。心地よく、懐かしさが感じられる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブル席とソファがあり、気の合ったもの同士で過ごしたり、1人でも好きなように過ごせるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、手づくりの作品を飾ったりされている。テレビやなじみの物を置かれている方もいる。	居室はすっきりと整えられ、ベッド、エアコン、衣装ダンス2台、洗面台を完備している。家族の写真や手作り作品を飾り、本人らしく過ごせる部屋となるよう工夫されている。日中はほとんどの利用者が、リビングで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などわかりやすく表示したり、動線を考えた席の配置など工夫している。		

2 目標達成計画

グループホーム粹交舎滑川

作成日：令和 5 年 10 月 4 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	実施している研修会、委員会の資料や記録、チェック表などファイルしているが、参加者や日付等が分かりやすく整理されておらず誰もが分かりやすいとはいえない。	職員誰もが振り返り、確認しやすいように整理、仕組み作りを行う。	研修会、委員会の資料、記録物など分かりやすく整理し、いつ、誰が見ても確認しやすいようにしていく。	6ヶ月
2	26	担当職員が家族、本人の要望、意向を取り入れ介護計画を作成しているが、本人の意向が反映しきれていない。	毎月の職員会議やカンファレンスで共有した日常の様子や気づきなども介護計画に反映できるようにする。	全職員が情報共有するための方法と書式の工夫をし、より一人ひとりに適したケアプランの作成に努める。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()